



今回は図書委員さんに、「いちばん心に残っている本」について書いてもらいました。
—あなたの心にいちばん残っている本はなんですか？



『偽物語 上・下 (物語シリーズ)』
西尾維新 著
講談社

この話は、主人公である暦の妹達が主軸となって進みます。

町のトラブルを解決していく妹達は、自分達を正義の味方だと豪語します。しかし暦は、そんな二人に「お前達がしているのは、ただの正義の味方ごっこだ。偽物だ」と言います。

この本は、偽物とは何か、本物とは何かを考えさせてくれます。本物の反対は偽物なのか、偽物の反対は本物なのか、色々問いかけられます。他にも、「私は正義の味方ではない。悪の敵よ」というセリフがあります。正義の味方は、同時に正義以外の全ての敵なのだ。

本物とは何か、偽物とは何かを、この本を読んで考えてみてください。

(ペンネーム ベジタブル)



『精霊の守り人』
上橋菜穂子 著
新潮社

私がいちばん心に残っている本は、上橋菜穂子さんの『精霊の守り人』です。

理由は2つあり、1つは女用心棒バルサと敵との戦闘シーンです。帝が第二皇子チャグムを殺す為に放った刺客である「王の影」との戦いは、読んでいだけで身体が熱くなり、精霊の卵を狙う怪物、「卵食い」ラングとの戦いは、ハラハラさせられました。

2つ目は、旅を通しての皇子チャグムの成長です。最初の頃のチャグムは、ワガママで子供っぽい性格でしたが、旅を続ける中でバルサから武術を教わり、人々と交流したことで人間としても成長しました。

私はこの物語を通して、チャグムの成長や二ノ妃の愛、帝の非情さなど人間の生々しい部分も、温かい部分もまとめて心に残りました。

(ペンネーム 竜桜ミーナ)



『Re:ゼロから始める異世界生活1~23 (以下続刊)』
長月達平 著
KADOKAWA

私は魔女教大罪司教「怠惰」担当ペテルギウス・ロマネコンティ、デス！ 愛に勤勉なる私が心に残る作品は『Re:ゼロから始める異世界生活』デス。あることから不登校となった怠惰な高校生ナツキ・スバルが、異世界に召喚され、様々な苦難を乗り越える、脳が、震える作品デス！ 近頃はアニメ2期放送も決定している人気作品でもあるのデス(※)。怠惰で無力な主人公ナツキ・スバルが、唯一の能力「死に戻り」を利用し、何度も死を繰り返すも愛する者を守るために立ち上がり、時には亡き者のために身を投げ出す。嗚呼、実に良い！ 寵愛に情愛に友愛に深愛に純愛に、愛に愛に愛愛愛愛に溢れているところが素晴らしいデス！！ 実に実に実に、脳が震えるう！！ どうやら私がこの作品に登場するようデスネ。再会が楽しみデスネ！！

※ただ今第2期放送中！

(ペンネーム ペテルギウス・ロマネコンティ)



『ひとりの時間が僕を救う』
パーカー 著
KADOKAWA

私がいちばん心に残っている本は『ひとりの時間が僕を救う』という本だ。

この本は、大学生ぼっちのパーカーさんが著作した本で、大学生ぼっちになった経緯や、それまで歩んできた道のりを書き記したものとなっている。

私がこの本を読もうと思ったきっかけは、パーカーさんの YouTube チャンネルを見たことだ。パーカーさんのぼっちとしての生き様のようなものが感じられて好感が持てた。私は大学に進学することに不安を感じていたが、パーカーさんのような人がいることを知ることができて少し楽になった。

このように、この本はどこか安心させてくれる内容となっている。皆様もぜひ読んでみてください。

(ペンネーム パーカー)